

令和5年度 第4回 太良高等学校 学校運営協議会 議事録

1 会議名 佐賀県立太良高等学校 学校運営協議会（第4回）

2 開催期日 令和5年11月17日（金）14時30分～16時

3 開催場所 太良町中央公民館研修室 I

4 出席者

（1）委員

副会長 行平 真也 総務省地域力創造アドバイザー

九州産業大学地域共創学部地域づくり学科講師

委員 中村 秀貴 太良町社会福祉協議会総務係長

〃 古賀 龍貴 太良町観光協会職員

〃 高松 謙二 太良町社会福祉協議会監事 玉泉福祉会いふく保育園理事、主任児童委員

〃 澤 光樹 竹崎観世音寺住職

〃 緒方 康二 太良高等学校長

（2）県教育委員会

細國 真紀 佐賀県教育委員会事務局教育振興課指導主事

門脇 享平 佐賀県高校魅力化アドバイザー

（3）事務局

杉光 政実 教 頭

藤家亜矢子 事 務 長

副島 博孝 主幹教諭

津村 聡 企画研修主任

中村 洋介 教務主任

馬場 直子 地域連携支援員

宮崎 涼 主 査

5 学校長挨拶

省略

6 太良高校 PR 動画紹介（Making 映像＋太良高校 PV）

省略

7 協議事項

○人づくり太良町マップ

(1) 事務局より説明

太良高校生がボランティア活動に参加する際、より積極的に取り組めるようなシステムを作り、生徒の多様な学びにつなげ、生徒の成長を促すとともに、学校の魅力を高め、太良町の活性化に貢献することはできないか。たたき台として資料を作成しているが、どういう方向性で進んでいくかはまだ決まっていないため、多角的視点から様々な意見を頂戴したい。

【資料1枚目・2枚目の説明】

- ・有償ボランティアについて調べてみると、賃金ではなく謝礼になるが、謝礼は所得税を徴収するため、教育活動と結びつけるのは難しいところがあると思われる。ポイントや金券だったらどうなるかなど検討していく必要がある。
- ・太良町では商工会が発行している太良町ハッピーカード会の33店舗で使える商品券がある。第3回の運営協議会でも実証実験という話も出ていたため、5万円の予算で500円券を100人分購入して、社会福祉協議会と協力してやってみるといことを検討していきたい。
- ・ボランティアを地域に募集した場合について、地域の事業所や団体としてはどう思われるのか。
→太良町社会福祉協議会の中村さんに調査をしてもらった

<調査報告>

- ・地域の大きな課題として、どの業界でも人材が不足しており、どう確保していくかということがある。高齢化率が上昇していく中で、地域の福祉的な人材を確保していかないと住民の生活を守れないということで、福祉に関する団体が集まって人材確保の課題について話し合う場を設けているため、その委員に対し、「人づくり太良町マップ」の趣旨等を説明し、地域の事業者からのリアルな声の聞き取りを行った。(施設長や事務長など)
- ・結果としては、人材不足が顕著な現在において、受け入れは可能である、むしろぜひ来てほしいというような声もあった。しっかり役割を担っていただけるならばバイトでも構わないという意見もあった。
- ・ある施設には、経営者が特別支援学校で勤務経験があり、発達障害の特性を持つ生徒にも上手くアプローチできるという方もいた。
- ・課題として感じたことは、財源の確保、マッチング方法をどうするかということ。また、施設により同じ作業でも単価が異なることがあるため、単価が高い方に流れてしまう可能性がある。

- ・ボランティアによる対価として、太良町で利用できる地域通貨の発行を素案としているが、そのような課題等があるか

→太良高校事務長が、商工会の事務局へ聞き取りに行った。

<調査報告>

- ・商工会の事務局長（江北町や多久市などで勤務した経験あり）よりあくまで個人の意見ということで伺った。
- ・勤務していた時に、地域通貨が流行り、「ボランティアをする→スタンプをもらう→カード

にたまったらポイントが付与される」という仕組みを作られた。景品は役場が準備した。

・1年、2年は上手くいったが、3年目からはボランティアが集まらなくなったため、ハードルを下げる形で継続したが、役場からの景品支給がなくなった時点で、この事業自体を取りやめられた。事業を起こしてから、取りやめまで自身が同じ町にいる間だったため、取りやめの判断を提言することができたが、異動などで人が代わると、事業を廃止するタイミングが分からなくなるという恐れもある。

・K高校で、学美舎（まなびや）事業にも携わっておられる。企業が毎月支払いをする程度、学美舎（まなびや）に投資をして、売り上げをもらうというシステムだが、1年経過したときに、企業側から撤退してよいかという話があった。ボランティアがそれぞれの犠牲の上で成り立つ関係は継続性がないため、生徒側、先生側、企業側（地域）の3者が無理のないように、仕組みを構築することが重要であるとのこと。

【資料3枚目の説明】

・自分に合った太良高校の形ということで、毎週水曜日午後を自分で選べる自由な時間割とする。例えば、①進路に必要な科目を授業等で取って学校で受けることもできる、②授業を受けずにeラーニングでパソコンを使って自分の進路に合わせて勉強する（これが単位に認定できるかは研究しているところ）、③地域で人を育むということで、太良町の地域と連携してボランティア活動等で単位を取得する、④特別支援のような形で就労移行支援を行う（事業所の方にも長期インターンシップに行くなど）といった選択肢を用意する。

・今のところ、3学年一斉に始めるわけではなく、まずは年次進行で1年生からやっていくことを考えている。

(2) 協議で出た意見

・生徒はボランティアを前面に出すと不平不満が出てくるのではないかと。まだまだ日本はボランティアの意味が十分に伝わっていないところがある。ただ働きかという保護者も出てくるのではないかと。あくまでも授業の一環としてやった方が良いのではないかと。

・生徒たちが自分で考えて、自分で計画をするという形で、当事者意識を持って自分で行動するボランティアとなれば、不平不満は生まれないと思う。

・賃金の格差の懸念（同じ作業でも施設により単価が異なる点）があったことと同様に、ボランティアでの能力・意欲の格差も懸念される。ボランティアで実際に作業する中で、「よく動いてくれるやる気のある子」と「本人なりに頑張っているけれど、能力が低い子」は当然生じてしまう。受け入れる施設側からすると、能力の高い子に来てほしいのが当然だが、学校側からすると、教育活動だということであれば、能力の高い低いに関わらず送り出さなければならない。その中で、みんながポイントをもらう際に平等にという流れに本当になるのか、事前に仕組みや建てつけを明確にしておくべき。有償ボランティアでも、賃金は普通のアルバイトと違ってそんなに高くなく、正規の労働とは異なるという考え方であれば、施設側にもこれはボランティアであり、教育活動であるから受け入れてもらいたいという話をして合意形成を図っておく必要がある。

・生徒によっては1回やって嫌になる子もいれば、ずっと続けたい子も出てくる（温度差が出てくる）中で、ボランティアということで、施設側の責任がかなり大きくなってしまったため、そこで、学校がどう対応していくかということも検討課題として挙げられる。

・学校が授業の時間以外でやってきたことに対して単位を認定するということは今もある。しかし、土日にボランティア等をして単位を申請しても、普通に授業を受けている分で十分であり、プラスアルファの部分となり卒業には何も関係ないため、だれも行っていない。授業の中に入れて、その科目を選択して卒業単位として認定していくということもやってみようかという動きがある。ただ、授業科目とした場合に問題なのが、評価をどうするのかという点がある。この子はどのくらい頑張りましたというところまで含めて地域の方で評価をしてもらうということまでシステムとして構築出来たら理想だと思う。

・今は人材不足が顕著な医療・福祉分野に絞って進めているが、今後は観光など他の分野に広げていければ理想だと思う。

・地域の中で生徒たちを育てていくにはどうしたらいいか、その起点としてやはりボランティアという活動が軸にしてシステムをつくっていくという話だと思うが、本当は5ステップくらい階段があると思う。生徒自身が施設などのボランティアに行っている、行った経験があるということが最初にあるべき。まずはお互いのイメージを共有していくことが先決で、さらにそれが継続的な活動として先生が引率しながらできて、学校としても様子がわかってくると、その先にやっと、先生が引率しなくてもボランティア活動に行かせてみようかという話ができると思う。

・学校としての考えや施設側（現場）の考え、太良町の考えなどお互いに課題を出し合いながら、共通のビジョンを共有することが重要になる。学校運営協議会とは別でプロジェクトチームを立ち上げるべき。関わる人数や組織が増えれば増えるほど合意形成が難しくなってくる。

・単純に地域の医療・福祉の現場の方々という、もう本当に喉から手が出るくらい人材が欲しいという状況になっている。お金を払っても高校生を確保して、将来は自分のところに引っ張りたみたい話をされた方もいた。

・事務長の報告で、失敗事例の話があったが、それは今では状況が異なる話だと感じている。人手不足が深刻ではないときには、話し合いや合意形成など大変な調整コストをかけてまで、お付き合いはできないと言い切れる時代であった。今の太良町では、受け入れ側が調整コストをかけてでも人材が喉から手が出るほど欲しい、協力してほしいという気持ちがあるようですので、学校や社会福祉協議会を中心に、この人づくり太良町マップの仕組みをつくりあげていってみてはどうか。まずは、社会福祉協議会を通して、調整を行っていき、上手くいった事例ができれば、ほかの分野にも広げていくということができると思う。

・企業と教育の現場と両方手を組んだ形でやっていると、相当綿密な調整が必要になると思う。それだけで1ヶ月ぐらい議論しないとできないのではないかな。

・太良高校は単位制であるため、選択科目の中から自分で選べるということが、他の学校とは違う太良高校独自の魅力になると感じている。そういう中で、柔軟性をもって地域のつながりも生かしつつ色々な形を作ることができるのではないかなと思う。

・教育活動の時間はボランティアとして活動し、その時間が終われば、今度はバイトとして賃

金をもらうという形もできれば、また違った刺激があり、良い相乗効果が生まれるのではないかと思う。

8 報告・紹介事項

(1) 太良町スクールミッション

事務局杉光教頭より説明

学校が抱えている使命についてしっかり定めようというもの。人事異動で校長が代わっても方針が変わらないよう学校運営協議会に諮っている。後ほど、事務局副島主幹教諭からご意見を照会する文書を送付する。最終的に、3月の学校運営協議会で承認をいただきたい。

(2) 学校評価（中間評価）について

事務局副島主幹教諭より説明

中間評価（進捗度）の評価をいただきたい。後ほど、事務局副島主幹教諭からメール郵送等で照会の文書を送付する。

(3) 太良町との連携活動について

太良たらふくマルシェ及び太良町文化祭について事務局中村教務主任より報告

(4) SAGA コラボレーションスクール成果発表会

プログラムの概要について事務局津村指導教諭より説明

12月22日（金）13:30 開演予定

(5) 校則・制服について

現状について事務局津村指導教諭より説明

(6) R5年度台湾市場向けインバウンド事業

太良町観光協会古賀さんより説明

9 指導助言

- ・佐賀県教育委員会事務局教育振興課指導主事 細國 真紀 様
- ・佐賀県高校魅力化アドバイザー 門脇 享平 様

省略

10 まとめ

○「人づくり太良町マップ」について

- ・社会福祉協議会による福祉施設等の事業所への聞き取り結果によると、人材不足が顕著であり、調整コストをかけてでも実現したいという様子がうかがえる。
- ・財源の確保、マッチングの方法など懸念事項や検討事項はまだあるが、学校運営協議会とは別にプロジェクトチームを立ち上げて関係者との合意形成や共通理解を図るべき。
- ・今は医療・福祉分野に絞って話を進めているが、まずは一つ成功事例をつくって、それを他分野へ広げていければ理想的である。